

# サステイナブルな中長期 ビジョンと学会運営、 萌芽の一年

公益社団法人 空気調和・衛生工学会  
会長 大塚 雅之



明けましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症“第5波”の最中、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、各国の選手たちの活躍に感動と学会躍進への勇気をいただいた一年でした。今年こそ、われわれの生活が回復に向かい、良い年になることを祈念しています。本年も倉渕隆副会長、熊谷雅彦副会長、飯嶋和明副会長、理事・監事33名、および事務局とともに、さらに本会の活性化と発展に取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお祈ひします。

本年は、社会においてウィズコロナ・ポストコロナの時代におけるニューノーマルな生活様式への対応が求められる中、フレキシブルに対応できる建築空間と建築設備の創造を目指し、努力したいと思ひます。現在、テレワークの普及やオフィスにおけるフリーアドレス制の導入などに伴ひ、ライフスタイルや生活意識も変化してきています。それに伴う日常のエネルギー消費量や水消費量の変化も著しいことが指摘されています。われわれは、新たな日常の中、健康と安全にも配慮し、省エネルギーと省資源を可能にし、2050年カーボンニュートラル化の社会の実現を目指す使命を担っています。そのような背景を踏まえ、昨年より学会としての“中長期ビジョン”を掲げ、学術、産業、運営の3つの部門において活動を開始してきました。今年、その萌芽の一年となることを期待しています。

学術部門においては、学術情報の速報性と国際化への対応を掲げています。今年4月から学会誌の電子化を開始するほか、論文集掲載論文の一部についてJ-STAGEでの即時公開を実施し、完全電子化への検討を開始します。また、新型コロナウイルス対策について、会長傘下に特別委員会を設置し、検討した成果を学会誌、セミナー、大会でのワークショップなどとおして、広く社会に情報発信を行ってきました。今年、英語版サイトも発足し、その情報を広く世界に向けて発信するとともに、有益な空調設備や衛生設備に関する技術、優れた学会賞受賞業績などの紹介も行います。

産業部門においては、会員に対する教育支援策の充実を基本とし、オンラインを有効に活用し活性化に努めています。衛生設備分野では、昨年12月にオンラインにより、官公庁などの設計基準でも引用されているSHASE-S 206-2019給排水衛生設備規準・同解説の改定説明会を実施し、今年4月から次世代技術者たちが、SHASE-S 206といういわば、技術の“秘伝のたれ”を継承し、同規準を詳しく解説するセミナーを企画しています。また、学生の集いの場、スチューデントフォーラムもオンラインの活用により全国の大学に展開し、次世代を担う学生諸君が情報を共有し、学術交流を深めています。加えて、建築設備技術者協会の設備女子会との交流も継続しており、今後は業界の若手技術者フォーラムの実施へと展開し、会員・賛助会員の増加へとつながるものと期待しています。

運営部門においては、業務の合理化を図るとともに、社員へのサービスの向上に向けて取り組みます。公益社団法人としての規程類、業務マニュアルなどを見直し、日常の業務の合理化も進めています。会計業務は今年4月よりクラウドによる一元管理へ移行するほか、学会主催のセミナーなどの催しについても、今年1月からWebを活用した自動受付システムの稼働を開始します。

今後、有益な学術交流の場を提供し、社会へ積極的に情報発信できる総合的なプラットフォームでありたいと考えています。会員の皆様には、そのような活動にご理解いただき、積極的なご支援、ご参加をお願い申し上げます。